



木更津市立木更津第二中学校  
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地  
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233  
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp  
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



木二中 学校だより 令和7年7月14日  
No.15/100 校長 山元 竜二

## 令和7年度第1学期終業

さあ、今週17日(木)に第1学期終業式が行われ、翌18日からは待ちに待った夏休みとなります。木二中学生の皆さん、令和7年度第1学期、学習に部活動によく頑張りました！金曜日からは長期休業になるので、普段の生活より時間に余裕があるかと思います。そこで皆さんには第2学期に向けて、あるいは高校生活に向けて、もっと大きく言えば、自分の将来に向けて様々な事を考える時間を作ってほしいと考えています。

今、皆さんはまだ中学生ですから、すべてと言ってもいいくらい生活のほとんどを保護者や先生、その他たくさんの大人たちによって守られています。小さく幼かった頃のように、食べることや着替えることなど、生活のすべてを保護者に依存していた時期はとくに過ぎたとはいえ、あるいは、自我に芽生えて自立が始まった中学生になったとはいえ、それでも自分で働いて生計を立てている中学生は日本中どこを探してもいないはずです。今はまだたくさんの大人たちに助けられてはいるけど、近い将来、必ず自分の力で人生を歩んでいかなければならなくなる。中学、高校、人によっては大学だったり、専門学校だったり、いわゆる「学生」と言われる間はその準備期間であると私は解釈しています。

令和7年度第1学期を終えようとしている今、4月からの中学校生活をそれぞれの学年の立場で振り返ってみてください。中学生になった1年生、中堅学年と言われる2年生、進路選択の3年生、それぞれの立場で見方・考え方、反省も異なるはずです。そしてその振り返りを未来に活かしてほしい、視線を未来に向けてほしいと思っています。

## ベネフィットとリスク

**ベネフィット** = ここでは、その行動によって得られる満足度や達成感、自己有用感のこと。チャンス。

**リスク** = ここではその行動によって将来起こりうる不確実な事象とその影響のこと。一般的には、悪いことが起こる可能性や、予想外の結果になる危険性のこと。ピンチ。

過去を振り返ったとき、こんなことはありませんでしたか？「失敗して傷つくのが嫌だからやらない(挑戦しない)でおこう」とか、「今(授業でも仲間との会話でも)こんな発言したら後で何を言われるかわからないから言わないでおこう」とか。(日本人あるあるですね)

実は、人は誰でも何か行動を起こそうとする時、その行動によって得られるベネフィットと、リスクを天秤にかけて意志決定をしています。残念なことに私たち日本人は、このベネフィットとリスクを客観的に評価して物事を判断・意志決定することが苦手なんだそう。それどころか、様々な報道によれば、数年前から失敗や自分自身が傷つくことを極端に恐れて、リスクを回避しようとする「ゼロリスク思考」(ゼロリスクバイアス)にある若年層が急増中なんだとか。

「ゼロリスク思考」、もう少しわかりやすく言うと、考え得るあらゆるリスクを徹底的に排除し、リスクがまったくない状態をつくり出そうとする考え方や行動のことを言います。そしてこの「ゼロリスク思考」って何も若者、個人だけに言えることではなくて、企業や学校といった「組織」にも当てはまります。

例えば、

- ①ある会社が急な注文に対応できるよう在庫を確保しておこうと「品切れ」というリスクを回避した。
- ②ある学校の運動会で徒競走をしたら最下位になってしまう子どもが出るというリスクを回避し、みんなと一緒に手を繋いでゴールする徒競走にした。

この2つの例を皆さんはどう思いますか？2つの例から考えられるデメリットは何だろう？考え方はいろいろあるかと思いますが、①の例では、在庫の品にもよりますが、在庫を保管する場所、時間、それに対する対価、いわゆる在庫がなければ本来かからなかったはずのランニングコストがかかってしまいます。②の例では、涙や感動のない無味乾燥した運動会になる可能性が。要は、どちらをとるか？の究極の選択とも言えるのではないかと思います。私たち日本人は、リスク排除の方を選択しがち。挑戦しない。

非常に難しい判断を迫られることもあります。私は、「人(生徒)の命に関わること」であれば、リスクを徹底的に排除しなければならないと考えます。「これぐらい大丈夫だろう」が一番危険で、木二中の熱中症対策が他校に比べて厳しいのは、そこに理由があります。

それでも日頃の生活を想像してみてください。世の中、社会に目を向けてみてください。どれだけ命を守る約束があったとしても、地震や天候不順による災害だったり、交通事故だったり、私たちがどんなに備えていたとしてもリスクを完全にゼロにすることは絶対に不可能。リスクを完全にゼロにすることは絶対にできないのに、リスクゼロを目指そうとするとどうなるか。リスクこそが「悪」になるので、リスクゼロを目指そうとする環境は、「隠蔽」や「不正」の温床になってしまっているといわれています。リスクゼロが絶対的な目標である組織の中で、何か問題が起きた時、「(問題が起きているのに)問題は何もありませんでした」とウソの報告が上がってくることが多くなるのだそう。皮肉なことに、リスクゼロを目指そうとすることそのものが組織のリスクになってしまうという。

話を個人に戻しましょう。このゼロリスク思考、冒頭の例のように、「失敗して傷つくのが嫌だからやらない(挑戦しない)でおこう」とリスク回避したことにより、「挑戦」することで得られるベネフィットが失われることに。そして「今(授業でも仲間との会話でも)こんな発言したら後で何を言われるかわからないから言わないでおこう」とリスク回避したことにより、他者からの「承認」というベネフィットが得られなくなりました。どういうことか。ゼロリスク思考が少なくとも個人(組織も)の変容を妨げている要因になっていないか?ということ。個人(組織も)の成長を妨げてはいないか?ということ。

私は、前述したように、人の命に関わることについては徹底的にリスクは排除されなければならないと考えるし、それが組織のリーダーたる者の絶対的な義務でもあるとも考えています。しかし、一方で人(生徒)の人間的な成長に関わることについては、一定程度のリスクを承知の上で挑戦する(させる)ことも大切ではないだろうか? 転ばない(転ばせない)ことより転んで膝を擦りむいたら「痛い」んだということを知ることでもあるのではないかと考えています。なぜなら、人は「成功」よりも「失敗」から多くを学ぶからです。「失敗」は、「挑戦」した証だからこそそこに「成長」の余地があるはずだからです。

3年生の皆さんの中には、「不合格になるのが嫌だから高校入試には行かない」という人はいないはず。また、まったく受験勉強をしていなくて点数が取れていない人が、千葉県No.1の高校を受験することはないでしょう。

何が重要か?と言うと、「高校入試」にあたって起こり得るリスクを洗い出し(リスクマネジメント)、それに対して何をどのように対策(受験勉強)するかを考え(リスクヘッジ)、入試には「絶対合格」も「絶対不合格」もないけど挑戦する(リスクテイク)こと。人の命に関わることは常にリスクゼロを目指す「ゼロリスク思考」でなければならないけど、リスクを承知の上での挑戦なくして自己の成長、組織の成長はあり得ない、ということなのではないでしょうか。



木二中生の皆さんは、2025年夏、何に挑戦しますか?

**リスクマネジメント** = リスク管理。将来、生じ得るリスクを管理すること。考えられるリスクを洗い出して整理したり、防止策を検討・立案・実施したりすること。

**リスクヘッジ** = リスクに対する防止策の検討・立案・実施にフォーカス。リスクマネジメントのプロセスの一つ。また、リスクを適切に評価し、コントロール可能な範囲で利益を最大化するための手段。

**リスクテイク** = リスクが生じることをわかった上でそのリスクに立ち向かう、行動すること。チャレンジすることでリスクに見合う成果を得るための行動のこと。ある意味では、ハイリスクハイリターンの行動となる。

### 自分は気持ちのいい挨拶ができていると自信をもって言えますか?

6月前半頃からか、私は、「木二中生、挨拶しなくなったなあ…」と感じ始めました。登下校中に私から直接指導を受けた生徒もいます。先週も登校してきたある生徒が私と目が合ったにもかかわらず無言で立ち去ろうとしました。

挨拶の「挨拶」には、「心を開く」という意味が、挨拶の「拶」には「相手に近づく」という意味があるということを知っていますか?つまり挨拶は、自ら率先して心を開き、相手に近づいて良好な関係を築こうとする行為のこと。挨拶されてから返すのではなく、自分から先に心を開いて挨拶することが何よりも大事だということ。「挨拶しても返してくれないから挨拶しない」は実は見当違い。挨拶は自分からするものなんです。しかしながら残念なことに中学生、高校生はまだまだ人間的に未熟であるがために、自分に利益が感じられない相手には挨拶しないという傾向があると感じます。例えば、高校生になってアルバイトを始めた途端に初めて挨拶ができるようになる…。お金、もらえなくなっちゃうから?私はそんな生徒を何人も見てきました。木二中生の皆さんには、挨拶の本質をしっかりと身につけて中学校を卒業してほしい。子どもは身近な大人の姿勢を見て育ちます。先生方もしっかりと挨拶するようにしたいと思います。

それでは木二中生の皆さん、思い出に残る素敵な夏休みを! 2学期に元気な顔を見せてください!